

図書館だより1月号

令和4年1月 日
万代高校図書館

2022年が幕を開けましたね。今年はどんな一年にしていきたいと思いますか。昨年は、我慢をすることや、思ったとおりにいかないことが多かったかもしれません。でも新しいこの一年はまだ真っ白。そこに乗せていきたいのは、どんな色ですか？ 描きたいカタチは、どんなものですか？

今までできなかったことや、やらずにいたことを新しくスタートするにはちょうどいい、区切りの1月です。挑戦してみたいこと、行ってみたい場所、目標にしたい人…などなど、自分なりの何かを見つけて、そこへ近づくための時間を作ってみましょう。そのプロセスには、「本」が助けになるときが、きっとあります。「きっかけの一冊」を探しに、図書館に来てみませんか。いろいろな本を揃えて、お待ちしております。

図書館司書 楠

借いたままになっている本はありませんか？

図書館の本の貸出期間は2週間です。返却期限を過ぎて、そのまま手元に置いてある本はありませんか？ 冬休み前に借りた本を未返却の人は、早めに返しましょう。

また、次の3冊が貸出者不明になっています。

『「志望理由書」練習ノート』

『からだ雑学事典』

『巨匠に学ぶ構図の基本』



心当たりの方は、図書館入口わきの返却BOXか、カウンターの図書委員まで返却をお願いします。一冊の本が、より多くの人役に立つように、ご協力をお願いします。

千の扉あけて 第9章

本の表紙を開いて最初に現れる、タイトルの書かれたページのことを「扉(とびら)」と呼びます。本を開くことは、いろんな世界、いろんな物語、いろんな知識へとつながる扉を開くこと。これから皆さんを、無数にある扉のひとつへご案内します。それをあけるかどうかは、あなた次第。ですが一冊の本の世界を旅した時、きっとそれ以前とは変わっている自分に気づくでしょう。今回の「扉」は…

『ナルニア国物語 ライオンと魔女』

C・S・ルイス 著
岩波書店

933
ル

今年も雪が多い冬になりました。雪の積もった景色を眺めていると、思い出して読み返したくなる本が『ナルニア国物語』の最初の一冊である『ライオンと魔女』です。



舞台は第二次世界大戦中のイギリス。ピーター、スーザン、エドモンド、ルーシの4兄妹は、空襲を避けて片田舎の老学者が住む大きなお屋敷に疎開します。かくれんぼをして遊ぶうち、末っ子のルーシが衣装だんすの奥から、不思議な雪景色の国に迷い込みます。そこは言葉を話す動物や妖精たちが住むナルニアという国でした。

白い魔女の呪いで冬がいつまでも終わらず、しかもクリスマスが来ない(なんと恐ろしい)というナルニアを救うため、4兄妹は偉大なライオンのアスランと共に、白い魔女の軍勢と闘います。2006年にディズニー映画として公開されたので、DVDなどで見たことがあるという人もいるかもしれません。映像の美しさのアスランのカッコよさに感動しましたが、本で読むと、より深く世界観を楽しめると思います。映画は残念ながら3作で終わってしまいましたが、全7巻の物語は図書館で最後まで読むことができます。「世界3大ファンタジー」の一つ『ナルニア国物語』をぜひ楽しんでください。

それではまた、次の扉でお会いしましょう！



新刊 PICK UP!

新潟県立万代島美術館にて、現在『サンリオ展・ニッポンのカワイイ文化 60 年史』が開催されています。皆さんの中にも「見てきた!」という人がいるかもしれませんね。

大人から小さな子どもまで、みんな知ってるサンリオ・キャラクターたちが、世界の哲学書を可愛く楽しく読みやすく紹介してくれるシリーズが登場です。

すでに図書館で手に取ってくれている姿も見られ、「カワイイ!」という声も聞こえてきます。司書の狙い通りです。全部で9冊あり、順次貸出しする予定です。見た目はカワイイですが、内容はしっかり高校生向けです。

「ぐでたまの「資本論」」

マルクス 著 331 マ 朝日新聞出版



原書は、19 世紀にドイツの思想家カール・マルクスによって書かれたもの。工業化が進み、安い賃金で働く労働者が多かった時代(現代と似ていますね)、その状況に危機を感じたマルクスが発表したもの。お金、そして働くこととの上手なつきあい方を、ぐでたまと一緒にゆるく学べます。

「キキ&ララの「幸福論」」

アラン 著 135 ア 朝日新聞出版



原書は 20 世紀初頭のフランスの哲学者、アランによる『幸福論』。2 度の世界大戦で、社会のあり方や価値観が揺らいでいた時代です。みんなが「社会が悪い」「周りのせいだ」と思っていた時代(現代と似ていますね)に、目の前にある幸せに気づくことの大切さを説いた名著を、キキ&ララと一緒に楽しんでみましょう。

「バッドばつ丸の「君主論」」

マキャベリ 著 311 マ 朝日新聞出版



ルネサンス時代、フィレンツェの書記官だったマキャベリ。常に他国と争いごとが絶えない中で、彼は領主に『君主論』を献上し、君主として民衆を治め自国を守る術を説きました。人間関係を円滑にし、トラブルを防ぎ、何か起きたときには対処ができる、強さと柔軟さが学べます。

「ポチャッコの「道は開ける」」

カーネギー 著 159 カ 朝日新聞出版



カーネギーは、話し方教室の講師として成功し、著書は大ベストセラーとなっている人物です。しかし若い頃は収入が少なく、孤独で苦難に満ちた日々を過ごしています。

のちに成功したカーネギーが、不安の正体を学び、悩み込まないための具体的なアドバイスを綴ったのが『道は開ける』です。心を開放するヒントが、きっとあります。